



第72号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 弘前報 印刷所 (有)小野印刷所

新1号館(仮称)の お目見え

学長 吉岡利忠

ご来賓の方々や保護者の皆様のご参列をいただき、晴れやかな中にも厳粛な雰囲気にも包まれて、文

2018(平成30)年度 入学式挙行



宣誓者 洪谷さんと吉岡学長 会福祉学部第20回、看護学部第14回、大学院社会福祉学研究所修士課程第16回、および文学研究科修士課程第14回、総勢216名の学生が入学されました。

中長期目標実施計画の 確立・実践に向けて

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



六 「学内改革2年目を迎えるにあたって」

『母の目所感』

今年、弘前の様を見逃してしまつた。季節の移ろいを感じることもない日々が続く、体調不良というやっかいな荷物を抱えた。健康に黄色信号が点滅しても、身に沁み込んだ習性のせいにか仕事のことや念頭から離れない。せつなく軌道に乗りだした学内改革が、出遅れる事態になりはしないかと焦燥感に

見舞われる日が続いた。ようやく体調が回復した頃、地元紙に母の目所感の母弘前にというタイトルの記事(5月13日付)が掲載された。明日は「母の目」である、人類の長い歴史の中でも、母の愛を享受しない人間はおそらくいないはずである。記事は、「母の目」の設立に尽力した弘前女学院弘前学院の前身第6代校長米国人女性の話題であった。私自身が忘れていた母への感謝を再び思い起こさせてくれた方が、実は本学院と縁が深い事を知り感慨深かった。米国人の女性は校長職を辞した後、「弘前母の会」を設立して自ら会長に就任した。その十数年後昭和7年には「全国母の会(会長)の創設に尽力し、5月8日東京日比谷公会堂で日本初の

「母の目」大会を開催した。(土砂降りの中でも、3千人の参加者があつた紙面を読み進めていくうちに、突然さまさまな思いが脳裏に去来した。三浦綾子に、「母」という小説がある。昨年映画化されて好評だったが、息子の小林多喜二が獄中で拷問死した時や、その後の人生で気丈に生きて母の姿を描いた作品もある。作者は、「神様はねお前が負えないほどの荷物は、決して負わせてはいないはずよ。大きな苦難にあつていっているのは、神様の側からみると、お前は、それを負うことのできる力のある人間だということではないのか」と作品の中で述べている。また、「愛とは、なすべきことをなす意志なのです。情けに流されるのが愛だ」とまがわなないでほしいのです。愛は感情でなく、意志です。人を幸せにしたいという意志をもつた行動だと思ひます。(小さな郵便車)とも語っている。

からの補助金を予定して工事が進められております。工事は土曜日を含め早朝より始められており、数十本の地中深くまでの杭打ちが終わり基礎工事の完成とともに今後建物の外観が見られるようになるでしょう。工事による振動も騒音も少なく近隣住民の皆さまからは温かく工事の進行が見守られております。新棟の概要では、現在の1号館と面積はほぼ同じですが地下はありません。1階には事務室、入試広報センター、広い学生ラウンジ(ラーニングコモンズ)やロケットルームなどがあります。ラーニングコモンズとは学生の学習支援を意図した施設で情報通信環境が整い自習やグループ学習用の設備が用意されている開放的な空間であり、勾玉形の机や椅子はその配置を自由に変えることができ、モジュール型での勉強、討論、さまざまなイベント活動が可能になるという全く新しいスペースです。シンポジウム、研究会、学会なども開催できます。学生、教員が自由に利用できる、その完成を心待ちに



弘前学院大学新1号館 完成予想図

「新聞でだいぶまでに(丁寧)書いてもらってたね「待ちきれなくてタクシーで来たのよ。今年はずっと多くの同窓生の方々をお迎えすることができ、まるで女学生当時のような笑顔が飛び交った「弘前学院外人宣教師館・礼拝堂 春の特別公開」。新1号館の工事現場で見通しや駐車場の便は好ましくなかったものの、4月28・30日の3日間 盛況に実施することができました。資料館としてリニューアルした2年目となる宣教師館内では、「宣教師と弘前の100年」と題し、弘前女学校を拠点に教育・伝道活動をした宣教師の暮らしと弘前の人々との関

是非大学にお立ちより頂きたいと存じます。 2017年度(平成29年度) 大学認証評価について 高等教育機関(大学)は7年に一度、第三者認証評価機関から評価を受けて認証を受けることが義務づけられております。本邦には3つの評価機関があり国立大学を対象とした1991年(平成3年)発足の大学改革支援・学位授与機構、主に私立大学を対象とした2004年(平成16年)に発足した日本高等教育機関評価機構および1947年(昭和22年)に発足した大学基準協会があります。大学の質的向上を図る目的で設立された大学基準協会は最も歴史のある評価機関であります。本学は創立130年以上(大学としては約60年)の歴史を持つことから評価を受けるにはやはり多くの実績がありかつ厳正な評価が行われている大学基準協会にお願いし、これまで2度14年間の認証を受け教育、研究、経営など適切に行われていることが証明されております。 2017年(平成29年)に3度目の評価を受けるために必要書類などを整備し協会からの大学視察を受

「新開でだいぶまでに(丁寧)書いてもらってたね「待ちきれなくてタクシーで来たのよ。今年はずっと多くの同窓生の方々をお迎えすることができ、まるで女学生当時のような笑顔が飛び交った「弘前学院外人宣教師館・礼拝堂 春の特別公開」。新1号館の工事現場で見通しや駐車場の便は好ましくなかったものの、4月28・30日の3日間 盛況に実施することができました。資料館としてリニューアルした2年目となる宣教師館内では、「宣教師と弘前の100年」と題し、弘前女学校を拠点に教育・伝道活動をした宣教師の暮らしと弘前の人々との関

はさらに専任教員が増えることが決定しており、学生への充実した教育実習が保証されます。 大学の財政状況についても指摘がありました。私立大学は学生の学納金によって経営が成り立っております。毎年の収支決算は学生数のみならずその他の大学におけるさまざまな行事・業務と共に大学のホームページに公開しておりますが、健全財政に向かつており安定した大学運営が続いております。また、将来を見据えた中長期財務計画も作成されております。 大学基準協会からの指摘は地元新聞にも報道され皆さまには大変ご心配をおかけしました。指摘された事項は教員、職員、在学生も交えて真摯に適切に対応していることを申し添えます。その一つとして各学部の卒業生の就職率は100%、各種国家試験合格も全国平均よりうまっております。さまざまな資格を取得して社会で活躍しております。 在学生はじめ入学して来る生徒さんや保護者の皆さま、また卒業生の方々には、これまで以上に教育、研究業務に携わって参る所存でございますのでご安心のほどよろしくお願い申し上げます。



催しには、生徒・学生・教職員総勢約60名がそれぞれの立場で関わりました。聖愛中・高では学校紹介ブースを設置し、生徒会役員の生徒が来場者に直接説明をしました。社会福祉学部の学生は、社会福祉施設によるホットドリンクやコーヒール・雑貨などの販売ブース、「アール・ブリュット(障害者)により生み出された芸術作品」の展示などの企画調整運営を行いました。そして聖愛高校チアリーディング部や本学のハンドベル・クワイアの、明るく爽やかな姿と相互の信頼によってまとめ上げられたパフォーマンスは、子どもから年配の方まで多くの来場者を魅了しました。 3日間で県内外から613名もの来場者をお迎えし、多くの方は1時間半以上もキャンパス内を楽しん

「地域の方・観光客が続々と 特別公開プロジェクトチーム

研究紹介④

組織的非営利活動の創始について

社会福祉学部 講師 柘植 秀通



現在、私が行っています研究は、キリスト教会の歴史とも極めて深い関係を持ったもので...

また、この事業は、18世紀の博愛事業を特徴づける、会費というシステムを取り入れ、むしろ、それを完成の域にまで押し上げた事業と言えます...

日本においては、慈善学校とい

談話室

自己紹介と抱負

看護学部 看護学科 助教 村岡 祐介



弘前学院大学に赴任して2ヶ月が過ぎようとしています。看護師として病院での仕事を辞め、看護学部の教員となり、今までとは異なった難しさを感じているところです...

私は秋田県の能代市というあまり都市的ではない町の出身です。秋田と言えは、きりたんぼ、稲庭うどん、なまはげや比内地鶏などは聞いたことがある方も多いいのではないのでしょうか...

言われる、慈善組織協会も、会費のシステム、特に会費を拠出する会員による合議制を基本とし、実務に当たる諸委員会を組織するシステム、また業務の煩雑化を通して、専任の事務官僚を雇用する、慈善における官僚制の導入など、すべて慈善学校運動の中で構築されてきたシステムをそのまま継承していると言えます...

このように、現在にまで至るNPO、非営利組織活動の基本となる構造を構築したと言える、慈善学校運動は、しかし、今ではほとんど顧みられることのない過去の記憶となつていきます。それゆえ、この慈善学校運動の組織特性を探求し、明確化することにより、現在の博愛事業、さらには現在のNPOのあり方をも考える指針となると考えています...

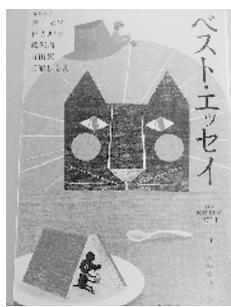
国語国文学会・文学散歩



六月二十五日(月)の創立記念日を利用して、日本語・日本文学科の国語国文学会主催の文学散歩が「弘前を歩く」文学の創作と空間をテーマに行われました...

『ベストエッセイ2018』に選出

公益社団法人日本文藝家協会において、前年のすぐれたエッセイを集めた『ベストエッセイ2018』(光村書店)が刊行されました...



父母と教職員の会 総会・懇談会報告と 年間行事のお知らせ

五月二十六日(土)、本学にて二〇一八年度父母と教職員の会総会・懇談会が催されました...

役員改選については次のとおり決定されております。会長 佐藤 和博(本学教授)...

人事異動

- 新任紹介: 文学部 講師 スティーン・マックウイニー
退職: 看護学部 教授 千葉 正司
異動: 事務職員 事務長 對馬 充

の文言も名誉会員に改正しました。総会に続いて行われた懇談会では、学生生活や履修及び単位修得、就職状況等について説明しました...



### 私の夢

文学部 英語・英米文学科1年 木村 倫



私の将来の夢は教師になることです。多くの人々の人生に深く携われる仕事である教師の仕事に、とても魅力を感じています。私が教師を志した理由は、大きく分けて2つあります。

一つ目の理由は、今までのさまざまな先生方との出会いです。素晴らしい先生として、高校在学中の担任の先生が印象深いです。担当科目は英語で、私はあまり英語が得意ではなかったのですが、授業を聞いていくうちに初めて「楽

しい」「よくわかる」と感じるようになりました。なぜそう思ったのかは「どう伝えたらわかりやすいか」、「どの教え方なら興味が湧くか」と生徒を第一に考え、英語を楽しそうに教えていた姿勢がよく授業にあらわれていたからだ

と私は考えます。この先生のように生徒ひとりひとりの事をよく観察し、学校や授業を楽しんでもらえるような教師になりたいと憧れました。

もう一つの理由は、英語そのものに対する興味です。大学入学以前は、具体的な夢が全く決まっておらず、高校3年の面談の際はなんとなく教師になることを将来の可能性のひとつとしか思っていま

### 私の夢

社会福祉学部 社会福祉学科1年 金ヶ崎七虹



私の夢は、悩み苦しんでいる人たちとともに寄り添いながら、社会復帰を目指せるよう支援する精神保健福祉士になることだ。

私が精神保健福祉士を目指すこととなった大きなきっかけは、高校の時に所属していたボランティア部の顧問である。その先生自身も大学は社

会福祉であり、部活ではボランティアのほか、日本を含め

て世界での様々な社会問題を取り上げ、疑問点を見つけては話し合った。多くのボランティアを通して、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々のコミュニケーションの取り方を学ぶにつれ、自分は何と

関わることが好きだということがわかり、この社会福祉学部を目指すこととなった。

本学の社会福祉学部では、人間や社会への深い認識や、広い視野を有することが求められている。入学してから3ヶ月が過ぎ、今講義で学んだ中でもっとも大切だと思

ったものが背景にある情報

だ。個人の状況は変わらなくても、周囲の人がその人を取り巻く環境を知っているか知らないかでは、物事が大きく変わる可能性がある。これは社会福祉だけに関係していることではなく、日々の生活でも言えることだ。このことを

学んで以来、私は周囲で起きている様々なことに、疑問をもつてみるように習慣づけている。

このように、講義で学んだことを少しずつ確実に身につけることで、厳しい状況や困難を抱えている人たちとどう心を交流するかを考え、目標とする社会と患者さんをつなぐ窓口としての存在になれるよう頑張りたい。

### 弘学で学ぶ

文学部 日本語・日本文学科1年 関川 華葉



私が弘前学院大学で学びたいと思った理由は二つあります。

一つは、古典から近代、現代にかけて幅広く日本文学を学べることです。私は本、特に漫画や大衆文学が好きなので、近代、現代文学の様々な背景に触れたいと思

いました。

また、近年、SNSなどでは文字だけのやり取りが主流となり、文字だけのコミュニケーションは解釈の違いによる誤解が多々あると感じます。その原因の一つは、若者言葉といわれる略語や正確ではない日本語が使われること

だと思えました。日本語は昔の形から現在使われている形になるまで変化し続けています。だから、古典から現代文学を学ぶことで、どのように言葉の移り変ってきたのかを知りたいと思いました。

もう一つは、教員免許を取

## 新入生の夢と希望 「私の夢」

### 私の夢

看護学部 看護学科1年 高橋くるみ



私の夢は看護師になることです！

看護師になりたいと思ったきっかけは5歳の時の出来事

にあった。

私は幼い頃は身体が弱く、よく入院を繰り返していた。親が共働きだったため病室に一人でいる時が多々あ

り、当時まだ5歳の私は寂しさや不安でいっぱいだった。そんな時、唯一私に声をかけてくれたのが看護師だった。病室で話す人がいなくなったため、看護師との何気ない会話のやり取りが私の不安や寂しさを紛らわさせてくれた。な

んかあれば看護師さんに言え

ば大丈夫だと看護師さんという存在を頼って入院生活を送っていた。

病気で入院中の不安がわか

る私だからこそ、私ができる

患者の心に寄り添い方が

ではないかと考えた。これが、看護の道へと志すようになったきっかけである。

また、私は発展途上国に興味があり、将来は国際的に活躍できる看護師にもなりたくて考えている。

発展途上国に興味を持ちはじめたきっかけは修学旅行でカンボジアに行き現地で見

たカンボジアの女性の話を

聞かされたことだ。発展途上国で働くことは大変なことばかりだとわかってはいるのにも関わらず、医療を受けられない人の力になりたいと思い、誰も

### 思い出あふれる宣教師館

文学部 日本語・日本文学科4年 小笠原佳奈

わいたように思う。

今年も子どもからお年寄り、外国人の方、障がい者の方など本当に様々な方が来てくださった。ここがどんな人にとっても楽しめる場であり、またほんの一部分ではあるが、近代の、外国人が行き来する拠点であった弘前を知る場にもなったのではないかと

思う。

地道な文献調査やわかりやすい展示のための準備、地域へのイベントの告知など苦労した点も少なくなかった。しかし最後に来場者の方々の笑顔が見ることができ、学生生活の中でも最高の思い出となった。



今年度の宣教師館のイベントで特に印象深かったのは、宣教師の方々を知る卒業生の方や、宣教師館の近くに住んでいた方が訪れ、当時のお話をしてくださったことだ。「この先生は厳しくて、よく怒られた」と苦笑しながら話す方もいれば、「クリスマス

の時は近所の子どもたちを宣教師館に招いてプレゼントをくれた。そのプレゼントは外国製の鉛筆や消しゴムで、学校ではそのプレゼントがちょっとした自慢になった」と懐かしそうに笑う方もいて、宣教師の方々

が本場に地域に馴染んで生活していたのだと感じることができた。今年のイベントは展示解説をする学生スタッフが、むしろ教

えてもらう側になることもあれば、

あり、本場に和気あいあいとした雰囲気の中で三日間イベントをやる

ことができた。また、そうして様々なエピソードが生まれるほど地域に馴染んで生活していた宣教師の方々、宣教師館への愛着もより一層

やろうとしない事を率先しておこなう姿は何よりも格好い

いなと感動した。

そのため、看護に必要な知識を身につける努力を心掛

け、沢山の本を読み、物事に

対して視野を広く持てるよう

な人間になりたい。

また、沢山の出会いを自分の日々の原動力に変える事ができるような大学生活を送りたいと考えている。